

滝沢いっせい市政報告

文責:滝沢いっせい
上越市北城町2-2-39
Tel.025-520-5670 Fax.025-520-5678
携帯 090-1669-3890
メール kpissey@rf6.so-net.ne.jp
この市政報告は、政治活動費(個人分)によって作成しています。

「中川市政」を危惧
しています

「防災計画」の徹底的
見直しを求めます



なぜ

「地元事業者」を守ります

「議員定数」の削減を主張します

「雪と生きる」と言い続けます

なぜ「中川市政」を危惧するのか

- 上越市のあるべき姿が見えていますか?
- 地元事業者の奮闘・苦闘をしっかりと見えていますか?
- 13区の衰退をどうくい止めますか?
- 市民の命を守る。防災を真剣に考えていますか?
- 生まれた時から看取りまで、市民の幸せをどう支えますか?
- 公共事業、何に投資し何をやめるか、見据えていますか?
- 思いつきでなく本当に必要な市政を行おうとしていますか?

中川市政を二年間見続けてきて、私は市長からそれらを感じることができないままです。一言でいえば中川市政の行方を危惧しています。市長(行政)と議会が手を携えて市民のために働く、その当たり前のことを実現するために、ともに一層の努力をしなくてはなりません。

市長には、市民の最大幸福のために、上越市のあるべき姿、何を優先し何を捨て、どのような戦略・戦術で臨むのか、さらに明らかにしていただきたいと思えます。議会は正すところは正しつつ、推すべきところは推していきます。

なぜ「地元事業者を守る」と言うのか

地域を育成する、地域を保全するという視点から、上越の経済を土台から支えている地域事業者の皆さんを守る発想をさらに深める必要があると考えます。

一つ例をあげます。市は地震などの災害時にむけ、建設業をはじめ様々な業態の事業者と災害時応援協定を結んでいます。災害時に真っ先に災害現場に駆けつけ復旧にあたるのが地元の建設関連事業者を始めとする皆さんです。いまその事業者の多くが、深刻な人手不足、仕事不足に悩んでいます。

2016年全国建設業協同組合連合会会長の青柳剛氏は「公共工事が限界を割り込めば、災害発生時の対応が困難になりかねない。普段より健全な仕事量を確保してほしい」とする「限界仕事量」という考え方を示しました。農業は国と国民を守る食糧安保と言われますが、建設業もまた国民の生活・安全・生命を守る安全保障の重要な柱です。上越市で建設関連事業者が廃業・衰退・縮小の危機に瀕している現状から目を背けてはなりません。

建設関連事業者だけではなく多くの地元事業者が安定して事業を営める環境をつくることは、市民の安心安全に直結します。行政に欠かしてはならない視点だと思えます。

なぜ「防災計画」の徹底的見直しを求めたいか

1月1日能登半島地震により犠牲となられた皆様に心より哀悼の意を表します。上越市においても甚大な被害が生じ、行政は今復興に邁進しています。

上越市には、地震、津波、自然災害、原子力災害そして一般災害にむけた「地域防災計画」があります。どれも練られたものですが、この度の地震で分かったのは、いざ災害が来てみると想定外の事態が起きるといったことでした。津波避難の大洗滞、避難所に入れない、そして災害対策本部に市長が来られなかったことなど…起きてみるまで分らなかったでは済まされません。『防災計画』の徹底的見直しをしなくてはならないと考えます。

複合災害の恐ろしさも改めて思いました。もしあの地震と津波が来た時、豪雪であったなら、柏崎刈羽原発で事故が起きていたらどのようなことになっていたか。最悪の想定をし、それでも機能する防災計画となるよう検討が必要です。

市民の命を守る、それが市政の1丁目1番地です。

なぜ「議員定数」の削減を主張するのか

上越市議会の定数は32名です。昨年来議会で定数の是正を検討してきましたが、結論は「検討を継続し、この度の市議選は現状でいく」というものでした。

私は32名から8人削減し24名にすべきと考えています。

20万人都市であった平成24年に32名となった市議會議員定数。12年たち2万もの人口が減った現在、議員定数だけ変わらないのはバランスがとれません。この度1年365日議会が開会される通年議会が実現する見通しが立ち、議会はよりスピーディで機能的に動けるようになります。上越市議会の最大の弱点は、政策形成能力が低いことですが、それも急速に改善されていくでしょう。

定数削減のデメリットを敢えてあげるならば、議員のいない区が複数生まれる可能性があることですが、本来市議會議員は幅広い視野をもって市域全体を見る義務があります。もし議員がいない区が生じても、必ず市議会は一丸となってその区と市民の皆さんを支えます。市民の皆さんのご意見ご要望をお聴きする機会も担保していきます。

なぜ「雪と生きる」と 言い続けているのか

雪を克服
しなす。

雪を活かし
ぬす。

雪と生きる



「不撓不屈」「義のこころ」など多くのひとは座右の銘を持っています。まちにもそのまちが在り続ける座右の銘あるいは指針が必要なのではないかと思っています。

2011年東日本大震災の翌年、宮城県気仙沼市を訪ねる機会がありました。そのせつ復興真只中の地元の皆さんからこんな話をお聞きしました。

「私たちは復興へ向けて市民の心をつなげる指針を定めました。『海と生きる』というものです。津波で私たちのまち、財産を奪い、何よりも愛する家族や友人を奪った憎い海。けれど私たちはその海とずっと共に生きてきたし、これからも生き続けなくてはならない。だから海に背を向け憎み続けるのではなく、『海よ、何があろうとこれからも我々はあなたと共に生きていく』と決心しました。そして立てた指針が『海と生きる』なのです」

私は感動しました。自分たちのまちとは何か考え抜き、絞り出した真の存在意義、それ

は海と生きること。単なるスローガンではない、本当の言葉だと思いました。そして私たちのまちにも私たち市民が心をつなげて生きていける指針がいないのではないかと思うようになりました。そして考えたのが『雪と生きる』でした。

人が住む都市として上越市は世界でもまれなほど雪が降ります。半年近くまちを閉ざし、なりわいも止めてしまう豪雪。時に雪降る時の事故や雪崩で人の命を奪うこともあります。一方で雪は春からの豊穡をもたらす、雪国独自の文化を育んできました。速く先祖の時代から私たちは雪と戦い、雪を克服し、活かして生きてきました。これからもそうであるでしょう。

雪と生きる。雪に打ち、雪を活かしていくまちを創る「覚悟と誇り」を持つことが、いまの私たちにとって大切なことだと思うのです。



雪を克服
しましょう。

雪を活かし
ましょう。

雪と生きる

～克雪利雪先進都市の建設を～



「上越 雪と生きる条例」の制定をめざします

「雪と生きる」これが私たちのふるさと上越市の宿命でありアイデンティティです。人が住む都市としては、上越市が世界で一番雪が積もる都市だという話があります。どんなに雪が降っても積もっても、一人暮らしのお年寄りから企業まで、だれもが心配なく暮らせる「克雪利雪先進都市」を一緒に作りませんか。そうすれば若者も躊躇なく帰ってきます。世界最先端の克雪技術・利雪技術を投入して快適なまちをつくる。それを全国から世界から学びにくる。克雪利雪先進都市上越の建設へ。国の制度なども利用して、実現したいと考えています。

上越の未来のために、今から行政を動かしたい。 私が構想するプロジェクトの一部17項目です。

◇上越市の将来に関わるプロジェクト(7)

1.「雪と生きる」克雪利雪先進都市の建設

世界最先端の克雪・利雪技術を研究・投入し、誰もが安心して暮らせる快適な雪国のまちをつくります。またその技術を世界に提供します。

2.建設業など地元事業者を支える地域保全型の公共事業推進

地域の経済、雇用を担い、防災でも活躍する建設業など、地元事業者を支える「地域事業者保全型の経済循環」を図ります。

3.13区、中山間地域を守る！

人口が激減する13区はじめ中山間地域を必ず守っていく覚悟を持ち、新しい過疎地域持続的発展計画を確実に推進します。

4.こどもへの助成金を大幅拡充

こどもへの助成金を大幅拡充、市の責任で経済的に保護者を支え、結果としてこどもを増やします。「こども年金制度」の可能性を研究します。

5.上越広域医療構想の進展

6.橋梁・道路・管工等インフラの保全・長寿命化

7.日本初日本最大のメタンハイドレート基地建設

◇積み残し、すぐやるプロジェクト(5)

1.市街地防災へ、側溝や排水網整備、電線類地中化等インフラ整備

2.市内全域の地籍調査を長期的に推進

3.高田駅西口建設/寺町街並整備(歩道・景観整備等)

4.高田城址公園整備/櫓形門の復元

5.複合災害時(例えば、地震×原発事故×豪雪)に実効性ある防災計画策定

◇新たな価値を創造するプロジェクト(5)

1.高田本町公園通り化構想

3～5丁目本町通りを人々が散策し憩える公園通りに大変身させ、新たな価値を持つ中心市街地にします。

2.船見公園フィッシャーマンズワーフ&バザール化・屋台会館無人循環バスターミナル化

船見公園近辺を大規模開発、海鮮市場・食堂等を揃えたフィッシャーマンズワーフに。また三八市を同スペースに移転しバザール化します。うみがたり横にある屋台会館を無人バスのターミナルとし、時計回りに～船見公園フィッシャーマンズワーフ～直江津駅～エルマール(無印良品)～屋台会館バスターミナルと循環する交通システムをつくります。

3.ドームスタジアムの建設

少年少女らが冬季でも野球やサッカー、アクティブスポーツ等を楽しめるドームスタジアムを建設します。

4.上越妙高駅西口蓋遺跡表土を利用した大規模薬草園展開(ヨモギ等)はじめ、上越各地での園芸農業の振興&ブランディング

5.森林資源の有益化/電源・熱源としての可能性研究



いよいよ待ったなし！上越市議会議員定数削減へ！

私の構想は32名から24名へ

市議会議員定数は平成24年以来32名です。12年たち人口が約2万人減った現在32名は多すぎます。1年365日議会が開かれている通年議会が実現する見通しが立った今、定数削減を断行すべきです。私の構想する24名となっても議会はじゅうぶん機能します。もし市議会議員がない区が生じても、必ず市議会は一丸となってその区と市民の皆さんを支えていきます。